

より良い景観検討のためのカルテ（チェックシート）

記入年月日：令和4年2月28日

チェック担当課：道路整備課

事業の概要	
事業名	(仮称) 東谷多目的広場整備事業
事業個所・対象地	川西市山原字垣ノ谷地内
事業期間	令和元年7月 ～ 令和3年6月
事業の対象となる 公共施設等	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 橋梁 <input type="checkbox"/> 河川・水路 <input checked="" type="checkbox"/> 公園・緑地 <input type="checkbox"/> 公共建築物等
事業に含まれる要素 (個別指針より)	<input type="checkbox"/> 法面・斜面 <input type="checkbox"/> 擁壁 <input type="checkbox"/> 護岸 <input checked="" type="checkbox"/> 舗装 <input checked="" type="checkbox"/> 付属施設(防護柵、公共サイン) <input checked="" type="checkbox"/> 建築物
構想・計画段階（各事業共通）	
項目1	景観形成の指針を把握する。
項目2	共通指針（全体指針 A-1～A-5、B-1～B-5）の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮する事項を記入する。
	B-2 現況地形の改変が最小限となるように、現地調査を実施し、整備計画を検討する。
	B-3 周辺景観に違和感を与えないように、施設の配置、意匠等を検討する。

設計・施工段階 / 公園・緑地		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
☑	自然地形を活用した施設配置等により、造成規模の縮小を踏まえた計画を採る。	現況地形の改変を最小限に留めるとともに、計画地周辺の樹木の保全を図り、周辺の自然景観に馴染んだ施設整備を行った。
☑	園路は、土や石材、木材等の自然素材や落ち着きのある敷材を用いるなどして、周辺景観や園内の緑との調和に配慮する。	アスファルト舗装を必要最小限にとどめ、周辺景観に配慮した。
☑	柵、照明柱等は、過度な装飾や高彩度色は避け、シンプルな形態、意匠とし、園内の緑景観や周辺景観との調和に配慮する。 <b>【具体的配慮事項】</b> <b>支持柱等の色彩 ダークブラウン</b> <b>10YR2.0/1.0 程度</b>	外周柵は、機能に留意しつつ、周辺からの見え掛りに配慮し、最小限の高さとし、自然の眺望景観を妨げないものとした。 周辺からの見え掛り外周柵、照明灯などは、シンプルなデザインとし、色彩は周辺景観になじみやすいダークブラウンやダークグレーとした。
☐	公共サインは、自然素材の活用や、シンプルで落ち着いた形態、意匠を検討することで、園内の緑景観との調和が図られる計画を採る。	(事業対象外)
☐	ベンチなどの休憩スペースは、園内の緑景観や周辺景観を眺めることのできる視点場として、落ち着きのある空間となるよう配慮する。	(事業対象外)
☑	敷地内建築物は、自然素材の活用を検討するとともに、シンプルで落ち着いた形態、意匠を検討することで、園内の緑景観や周辺景観との調和が図られる計画を採る。	敷地内建築物（便所）は、施設規模を最小減に留め、シンプルな形状で、色彩は無彩色のグレー系とし、周辺景観との調和に配慮する。

維持・管理段階（各事業共通）	
項目 1	景観形成の指針を把握する。
項目 2	共通指針（全体指針 A-1～A-5、C-1～C-4）の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮した（する）内容を記入する。
	C-3 当初デザインの意図を踏まえた材料を用いて補修を行う。



